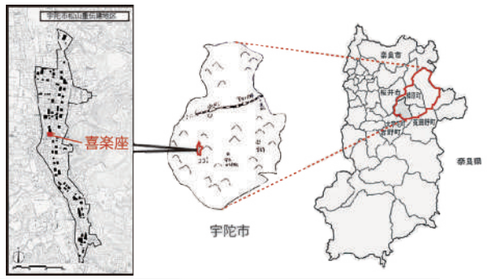
地域・コミュニティ活動助成

はならぁと宇陀松山実行委員会

奈良県宇陀市

甦れ文化の中心―伝建地区内に残る芝居小屋「喜楽座」の保存と継承に向けた地域活動



2019年7月、プレイベントの落語会は大勢の来客でにぎわった

団体設立経緯

知る人ぞ知る歴史的町並み、宇陀松山。地域の衰退につながる空き家を減らしたいと苦悶していたところ、伝統的な建物とアートを組み合わせて地域活性化を図るイベント「奈良・町家の芸術祭はならぁと」が奈良県のエリアマネジメント推進事業として始まりました。宇陀松山も2011年から開催の輪に連なり、2年周期で取り組んできました。はならぁと宇陀松山実行委員会は、「はならぁと」開催を契機として生まれた団体です。

活動概要と活動対象範囲

私たちは宇陀市の魅力発信、参加型のまちづくりの促進に努めることを目的として、歴史的町並みを現代アート作品などで演出するイベントなどを実施しています。

活動範囲は、宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区とその周辺です。イベントに使う空き家の所有者との交渉、予算の確保、作家さんの受け入れ対応、県内各地域との連絡・調整など、宇陀松山における「はならぁと」の運営を担っています。

活動に至った理由や背景

町並みの中央にひっそりと建つ旧芝居小屋「**喜楽座**」。かねてより喜楽座には、地域資源の可能性を感じていましたが、手が出せませんでした。転機が訪れたのは2017年、はならぁとの会場として喜楽座を利用したことから道が開かれました。

まちの人から聞く喜楽座の思い出話はどれも輝いており、新たに喜楽座に訪れた人にもファンができました。この建物が復活すれば松山地区の目玉になると確信し、「**はならぁと2019**」では活用に向けて試行錯誤を重ねました。

1. 奈良県建築士会の建築士が喜楽座を見学　2. 会場として使えるようにするため、何度も掃除に入った　3. 8月、中間報告会を兼ねた「蚤の市」を開催

活動内容と成果

●大掃除・建造物＆史料調査と交流会

喜楽座をアートイベント会場にするに当たり、キュレーターを早々に決めました。2019年6月8日にはキュレーター、参加予定作家、地元実行委員会とで、喜楽座のお片付けと資料整理、尚文堂書店のお片付けを実施しました。このとき、全国芝居小屋会議から建造物調査と史料調査の専門家を派遣いただき、喜楽座の建造物としての価値を探るための調査を依頼。片付けと調査を同時並行で進めました。

同日午後、奈良県建築士会のヘリテージ部会に呼びかけ、2名の建築士が見学のため喜楽座を訪れてくれました。建造物の専門家による説明を受けながら、喜楽座の価値に関する情報を地域の建築士と共有することができました。

夕方からは、作家と調査に入った専門家、建築士入り混じっての交流会を実施しました。芝居小屋の歴史から喜楽座の魅力、史料から読み解く芝居小屋の変遷など、専門家によるレクチャーを聞き、親睦を深めました。この2日間で得られた情報を鍵として、アーティストは作品制作に入っていきました。

●落語会の開催

喜楽座の存在を周知するため、7月13日にプレイベントで落語会を開催しました。建造物の専門家より、「この建物は落語に向いている」と言われたため、普段は宇陀松山の南にある報恩寺で開催している落語会を、喜楽座で実施してみたらどうか、となったのです。

当日を迎えるまでに何度か掃除に入り、床に水を流して磨いたり、高座のセッティングで頭を悩ませたりしました。破れて廃墟感満載の銀幕はお寺の五色の布で覆い、舞台としてどうにかいけるのでは、というレベルまで持っていくことができました。

落語会には檀家さんのほか、近所の方も来てくださり、定員40名を少し超えるほどのにぎわいとなりました。たくさんの観客が入った喜楽座を見るのは初めてです。お客さんの息づかいが空間を満たし、まるで建物が息を吹き返したかのような錯覚にとらわれました。

マイクなど音響設備がない中でしたが、演者の声は入り口付近まで届き、鳴り物に至っては道路まで聞こえてきました。なるほど、確かに落語に向いている、と感じた次第です。地元ケーブルテレビの取材も入り、イベント開催月である10月の放映となりました。

●蚤の市での中間報告

宇陀松山の夏の風物詩、「宇陀松山夢街道～町並みライトアップ～」が8月24日に開催されました。この催しに訪れるお客様をターゲットに、これまでの中間報告発表と10月当日の宣伝、そして片付けで出た品々を処分するため、尚文堂書店で蚤の市を開きました。来店された方には欲しいものを持って帰っていただき、活動のための寄付をお願いする、という形をとりました。

イベント参加アーティストが小学校で演劇ワークショップを開催

100名弱のお客様が訪れ、熱心に中間報告パネルを見ていく方もいました。書店内のモノがずいぶん減り、約2万3000円の寄付が集まりました。寄付は滞在制作をする作家さんに、そのままお渡ししました。

9月、滞在制作の作家さんを受け入れられるよう、展示に耐え得る状態になるまで、週末ごとに片付けをしました。

●大宇陀小学校とのワークショップとニュースレター

私たちの活動では、地域に暮らす子どもたちとの接点を積極的に持ち、地元への関心を少しでも高めたいとの思いがあります。2017年から大宇陀小学校のご協力を得られる状況ができ、今年度はニュースレターの配布と、はならぁと参加アーティストと子どもたちとの芸術体験ワークショップを受け入れていただきました。

対象は2年生、取り組むのは演劇です。アーティスト「アムリタ」の俳優4人が、ワークショップ前日から小学校で子供たちと過ごすなど、下地作りから取り組んでくださいました。

当日は体育館で4つのグループにわかれた子供たちの輪に入り、2つの課題に取り組みました。最初の課題「大人が2年生になるには」では、背を低くする、アクセサリーをはずす、一緒に遊ぶ、8本のローソクを吹き消すなど、いろんなアイデアが出ました。2つめの課題「将来の自分を演じる」では、社長さん、店員さん、お巡りさんなど様々な職業が登場しました。中でも、上着を脱ぎ、靴下を手にはめてボクシングの試合を始めたグループが一番盛り上がりました。

子どもたちにとっては楽しさ大爆発で大はしゃぎした、2コマの授業でした。この後の学活、収拾がつかないかもしれないと心配しましたが、担任の先生が最後のお話で、子どもたちの気持ちを見事に落ち着かせて教室へ戻っていきました。小学2年生の発想の豊かさとともに、教育者の凄さを実感した瞬間でした。

毎回、進捗状況を知っていただくために伝建地区内にポスティングするニュースレターを作っていますが、今年度は子どもたちが読むことを意識し、4コマ漫画を描いて発信をしていました。6号まで配布し、評判は上々だったようです。

●はならぁと宇陀松山2019

1. 2.「はならぁと宇陀松山2019」当日、復活した喜楽座会場でのパフォーマンス　3. 旧四郷屋会場では制作系の展示　4. 尚文堂書店を会場にした俳句のワークショップ

9月末からの作家の滞在制作を経て、「はならぁと宇陀松山」は2019年10月18日から始まりました。「喜楽座の復活祭」をテーマに作品群を展開。パフォーマンス、演劇、動画が同時多発的に喜楽座で上演されました。尚文堂書店では、教科書カフェと俳句のワークショップ、旧四郷屋ではイタリア人彫刻家の滞在制作と西山タカスケ氏の肖像画、大宇陀小学校教諭のイケモトタツヤ氏の作品展示と、子どもたちと取り組んだ美術教育のトークライブを実施しました。

口火を切ったのは喜楽座での「開会式」。奈良県、宇陀市、地元まちづくり協議会の方々を迎え、作家紹介、鏡割りでにぎやかに幕を開けました。喜楽座に元からある舞台に加えて、平場にも舞台を設置。走ったり、飛んだり、転がったりしても、躯体を傷めないで思う存分パフォーマンスをできる環境を作ったようです。私たちにはできない発想で、こうした使い方も「あり」だなと思いました。

メインの作品「アムリタ」の演劇では、芝居小屋だったころの「喜楽座ちゃん」と映画館に改装されてからの「喜楽館ちゃん」が擬人化されて登場しました。この2人は、小学2年生みたいに振る舞います。ワークショップで得た情報が、ここに生きたようです。これから先、喜楽座を活かす活動へのエールのような作品に涙がこぼれました。

10月18日～20日、25日～27日と、10月後半の週末のみ6日間の開催で、4000人弱の来場者がありました。多くは「はならぁと」のリピーターです。過去に作家として参加した方が観客として訪れてくださるケースも多く、うれしい再会が幾度もありました。

「アムリタ」とのワークショップのおかげで、2年生が保護者を連れて来場してくれました。裾野を広げる、という今回の取り組みの狙いも達成できたように思います。

●活動報告会

2020年2月15日、午前中に喜楽座の現地見学会、午後からまちづくりセンター千軒舎にてはならぁと2019の報告会を開催しました。見学会には10名、報告会には関係者含め25名程度の参加がありました。

橿原市今井町と八木町、奈良市柳生、吉野町上市での取り組みの紹介のあと、宇陀松山での記録映像を放映し、キュレーターを務めた渡辺瑞帆氏と、喜楽座の史料調査に当たった徳永高志氏とのクロストークを聴きました。喜楽座の今後への期待を込めて、様々な示唆をいただきました。加えて、法政大学の学生さんによる卒論報告と、法政大学2年生による来場者アンケートの結果報告があり、はならぁとのもたらした効果が数値で示されました。

最後に、参加者全員でアートイベントの今後や喜楽座を活かすための意見交換を行い、すべての工程を終えました。

2020年2月、報告会には25人ほどが参加。今後の活用に向けて期待が高まる

課題と解決方策

喜楽座は、大きな空間が魅力です。ただ、アート作品を展開するには広すぎるという難点がありました。今回、パフォーマンスや演劇で、ダイナミックに空間を使ってもらったおかげで、その点については道筋ができたように思います。

落語会の会場としても、その適正は実感できました。今後、運営を見据えたときに稼働率を上げるためには、もっと他にも利用方法を考える必要があると感じています。

この度の助成事業で、建物の修繕工事も実施しました。電気系統の補修、床が抜けて使えなかった階段の復旧、穴のあいた壁の保護、雨漏りする屋根の保護。あくまで短期間しのぐ程度の補修でしかなく、いつか抜本的な修理をしなければなりません。その方法や体制についての議論も出ましたが、すぐに結論が出せるものでもなく、積み残した課題となりました。

今後の予定

これまでの活動で、活用に向けての議論は尽くされた感がありました。もう行動しないと前には進めない、と実行委員会の中で声が出たため、当実行委員会を発展的に解消し、喜楽座の活用に軸足を置いた団体を設立することになりました。先進地視察など実践的な研究や喜楽座から見つかった資料の整理、年数回の公開を通し、「こう使いたい」というイメージと自分たちの体制と、バランスを取りながら運営できる方法を時間をかけて探ります。

はならぁと宇陀松山実行委員会

2013年4月設立／メンバー数：10人／代表者：田川 新一朗（たがわ・しんいちろう）
☎050-3198-9378
udamachama87@yahoo.co.jp
www.facebook.com/hanaudamachama/

はならぁと宇陀松山実行委員会は、奈良県宇陀市の魅力発信、参加型のまちづくりの促進に努めることを目的として、歴史的町並みを現代アート作品などで演出するイベントやその他の企画を実施しています。